

## 地域協議会だより

発行日 平成30年10月1日  
第52号  
発行人 清里区地域協議会  
会長 笹川 幹男  
編集委員 上原 澄雄  
桑原 正史

### 地域協議会報告

#### 平成30年度視察研修

【7月27日(金)】

#### ★研修内容

##### ○小国芸術村会館

中越地震で廃村となった山野田集落の古民家を利用してアートギャラリーとして運営している小国芸術村会館を見学しました。



小国芸術会館の様子

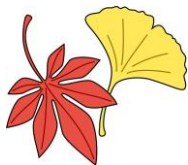


様々な芸術作品が展示されており、創作活動をされる方を中心とした発表・交流の施設として活用されているとのことです。

##### ○長岡市小国支所(地域振興戦略部)中山間地域集落支援班、NPO法人MTNサポート

長岡市が取り組んでいる中山間地域集落への各種支援策について説明を受けました。集落支援員による集落の見守り活動や、寄り合いの拠点となる施設整備、公共交通を補う住民同士の相乗りによる共助や、除雪困難者への支援組織の立ち上げに対する補助制度など、各種支援を実施しているとのことでした。

また、NPO法人MTNサポートから、コミュニティバスによる生活交通確保事業について説明をいただきました。路線バスの廃止を受けて始動した事業ですが、実際に即した運行を試行錯誤しながら進めているとのことでした。



○小国町八王子「たまり場八ちゃん」

集落の廃案を受け、中山間地域を支える新たな仕組みづくりのモデル事業として、古民家を改修してできた交流・移住促進施設が「たまり場八ちゃん」です。地域の交流の場として活用するとともに、中山間地域の暮らしに興味のある方がお試し居住できる場として、長岡市と八王子集落の協働により整備されました。



たまり場八ちゃんの外観

平成30年4月からは、集落の住民主体で運営する農家民宿として生まれ変わったというところで、中山間地域におけるコミュニティビジ

ネスの先進事例として大変参考になりました。

#### 視察研修報告

上原 澄雄

今回は、中山間地域集落支援の取組について、長岡市の小国地区(旧小国町)へ出向き、空き家対策とコミュニティバスの運行について研修を行いました。

空き家対策では、中越地震で廃村となった山野田集落において、集落出身者が空き家を芸術村会館というアートギャラリーとして改修し、作品展示等のイベントを開催しながら施設の存続を図っていました。

次に、八王子集落においては、空き家を改修した農家民宿を見学しました。元々は地域の茶の間として始動した施設とのことですが、今後は施設を活用した移住者の受入れを考えているとのことであり、事業を進めるリーダー的人材の必要性と、それをフォローする行政との連携が重要となると感じました。

また、コミュニティバスについては、路線バスの廃止により、NPO法人が運行業務を行っているりましたが、人口の減少に伴う利用者の減少が大きな課題となつてきていると、清里区においても公共交通を含めた今後の課題と感じ、地域協議会でも取り組むべき事項であると思いました。



古沢 義夫

今回の研修は長岡市で行いました。現在は廃村となった山野田集落にある小国芸術村会館は、小国和紙で作られたアート作品の展示を基調とした会館でしたが、芸術会館とうたうにはいささか殺風景であると感じました。

次に、中山間地域集落支援のコミュニティバスについてですが、運営を開始したものの肝心の利用者が少ないとの説明があり、今後の運営に支障が出るのではと不安に思いました。

最後に、小国町八王子の「たまり場八ちゃん」についてです。「たまり場八ちゃん」は元々住民同士の交流の場として空き家を改修してできた施設ですが、その延長として農家民宿を始めたといひます。代表者の方がとてもユニークな方で、色々なお話を聞いて感動しました。今後は、宿泊に來られた方の中から移住者となる人が現れ、さらには施設の経営に携わる人が出てきて欲しいと期待しているとのことでした。

三原田 裕子

長岡市地域振興戦略部の説明によれば、「除雪・移動・見守り」といった中山間地域における地域課題への支援策として、人的支援及び事業費支援が実施されているとのこと。

これら関連施設を見学し、お話を聞かせていただいたなかで感じたことは、物事を発案し、それを実行に移す人材がいかに大切であるかということだと思います。

私たち清里区民も、小国地区のように行政の力を借りて立ち上がり、中心人物にならなく

ても、取組に協力するだけでも充分だと思ひます。

先日開催された、清里区民が一丸となつて盛り上げたサマーカーニバル清里坊太郎まつり。一年も欠かすことなく、夜空に大輪の花をいくつも咲かせた盛大な打ち上げ花火は、皆様の心に響き渡つたのではないのでしょうか。

研修を通し、見習うべきところは大きいに学ばせていただいた反面、清里区の良さも再認識することができました。



小国支所にて説明を受ける様子

羽深 正

異常気象と言われる今年の夏でしたが、清里区の主たる産業、米の出来はどうなるのか大変気になるところです。

さて、今年度の視察研修では、我が清里区と同じく半分平野、半分山間地の長岡市小国地区に出向き、交通政策、空き家対策の現状を勉強させていただきました。少子化、人口減少、高齢化、空き家の増加と過疎化のスピードアップによる負の連鎖が、どこの地域でも発生していると思うとともに、地域の活性化といつても、大変難しい問題だと改めて思う、一日の研修となりました。

涌井 博道

今年、長岡市小国町の視察研修を行いました。日本全国どこでも、少子高齢化と過疎の悩みが尽きない事を痛感させられました。消滅集落で古民家をギャラリーや宿泊施設として再生させ、使用している所を見せていただきました。

また、小国町でのコミュニティバスの運行状況等を長岡市の担当職員から親切丁寧な説明を受け、やがて近い将来当地域でも交通弱者対策として検討していかなければならない問題だと感じられました。いずれにしても、地域活性化対として全国的に色々な試みがなさ

れている中で、百点満点の正解はあり得ないと思ひます。それぞれに幸せを感じて生きていける所が何処にでもある国になつて欲しいと願わずにはいられません。



### ■編集雑感

編集委員 桑原 正史

「生まれ育つた土地、住みなれた地域で住み続けたい」、多くの人の思ひではないでしょうか。

しかし、高齢化の進行に伴う人口減少等により地域の機能は低下をよぎなくされ、「地域で暮らし続けたい」という願ひを困難にしています。

私たち地域協議会は、過疎化が進行する中、人口定着・地域活性化に取り組んでいる先進地域への視察研修を定期的に行つていきます。

これからも、研修等で学んだことを活かし、清里区の振興に貢献出来るよう、地域協議会での議論を進めて参ります。